

皆さんの
投稿写真を
季節ごとに
掲載！

湘南発 みんなでつくる！

生きもの図鑑 冬



みんなで身近な生きものの発見を楽しみながら、「いつ」「どこにいたか」という学術的なデータを集積していく図鑑です。

- ※ 凡例 ①場所 ②年月 ③氏名
- ※ 対象地域は神奈川県です。
- ※ 同定者名の記載のないものは編集部（堀田佳之介）が同定。
- ※ 「県 RDB2006」は神奈川県レッドデータブック 2006 の略です。

Mail



どなたでも投稿できます

「写真」「撮影日」「撮影場所」「発見者名」をお送りください。種名がわからなくてもOKです。

投稿用メール ikimono@hiraoka-kg.com

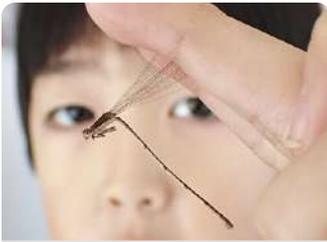
Web Site



生きもの図鑑 索引

創刊号～今号に掲載されたすべての種を検索できます（WEB限定）

平岡幼稚園 HP <http://hiraoka-kg.com/creature/>



ホソイトトンボ♀

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2025年12月上旬 備考：県RDB2006情報不足
- ③ 内田薫



クビキリギス♀

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2025年12月中旬 備考：—
- ③ 高野瑞喜



クビキリギス♀

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 吉田奈央



ツチイナゴ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 一瀬柑太



ツチイナゴ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 佐藤瑛麻



コカマキリ卵鞘

- ① 平塚市万田 同定：—
- ② 2026年1月上旬 備考：—
- ③ 堀越日向



オオカマキリ卵鞘

- ① 平塚市岡崎 同定：—
- ② 2026年1月上旬 備考：—
- ③ 下田采芽



カマキリ(チョウセンカマキリ)卵鞘

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 秋山颯汰



ハラビロカマキリ卵鞘

- ① 平塚市万田 同定：—
- ② 2026年1月上旬 備考：—
- ③ 堀越日向



アブラゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2025年12月中旬 備考：—
- ③ 角田瑛翔



アブラゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2025年12月中旬 備考：—
- ③ 田淵風



アブラゼミ羽化殻

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 下田采芽



アブラゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 植松凜



アブラゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 前田梓



ミンミンゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月上旬 備考：—
- ③ 関口瑛士



ミンミンゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2025年12月中旬 備考：—
- ③ 嶋津隼人



ミンミンゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 宮田イブラヒム



ミンミンゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月上旬 備考：—
- ③ 瀬戸康太



ミンミンゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 安澤柊斗



ミンミンゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 河野愛凜



ミンミンゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 佐藤海翔



ミンミンゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 小幡柚奈



ミンミンゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 杉山萌



ミンミンゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 相原小春



ミンミンゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 島村新菜



ミンミンゼミ羽化殻

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 芳形咲風



ニイニゼミ羽化殻

- ① 平塚市万田 同定：—
- ② 2026年1月上旬 備考：—
- ③ 堀越日向



タイワンツヤカスミカメ (死体)

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：国外外来種
- ③ 堀田佳之介



シロヘリクチブトカメムシ

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 秋山葵



ツヤアオカメムシ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月上旬 備考：—
- ③ 高野瑞喜



イネクロカメムシ

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 箕島凜花



カメノコテントウ

- ① 平塚市万田 同定：—
- ② 2026年1月上旬 備考：—
- ③ 堀越日向



ナナホシテントウ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 加藤希



ナナホシテントウ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 笠煌大



ナナホシテントウ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 高橋翔丸



ナナホシテントウ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 佐藤幸弥



ナナホシテントウ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 佐藤龍虎



ナナホシテントウ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 山田歩希



ナナホシテントウ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 小林桜花



ナナホシテントウ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 沢田拓音



ナナホシテントウ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月上旬 備考：—
- ③ 萩野菜々



ナナホシテントウ

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 磯田結月



ナナホシテントウ

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 磯田千晃



ナナホシテントウ

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 下田采芽



ナナホシテントウ

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 庄司和代



ナナホシテントウ

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 野崎歌音



ナナホシテントウ

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 齋藤亮希



ナナホシテントウ

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 箕島凜花



ナミテントウ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2025年12月上旬 備考：—
- ③ 遠田真優



ハッカハムシ

- ① 平塚市公所 同定：—
- ② 2025年12月上旬 備考：—
- ③ 松田蘭叶



マエアカスカシノメイガ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2025年1月下旬 備考：—
- ③ 関口瑛士



マエアカスカシノメイガ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2025年1月下旬 備考：—
- ③ 堀田志恩



マエアカスカシノメイガ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2025年1月中旬 備考：—
- ③ 鎌田一花



ウスバフユシヤク♀

- ① 平塚市万田 同定：中島秀雄
- ② 2026年1月上旬 備考：—
- ③ 堀越日向



ナミスジフユナミシヤク♂

- ① 平塚市万田 同定：中島秀雄
- ② 2026年1月上旬 備考：—
- ③ 堀越日向



ナミスジフユナミシヤク♀

- ① 平塚市万田 同定：中島秀雄
- ② 2026年1月上旬 備考：—
- ③ 堀越日向



イチモジフユナミシヤク♀

- ① 平塚市万田 同定：中島秀雄
- ② 2026年1月上旬 備考：—
- ③ 堀越葵



マメチャイロキヨトウ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月下旬 備考：—
- ③ 堀田佳之介



アオスジアゲハ蛹

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 伊藤舞音



ウラギンシジミ

- ① 山北町皆瀬川 同定：—
- ② 2025年12月下旬 備考：—
- ③ 小山田三鶴



ウラギンシジミ

- ① 山北町皆瀬川 同定：—
- ② 2025年12月下旬 備考：—
- ③ 小西碧



キタテハ

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 下田梨々美



サワガニ幼体

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 宮森鈴葉



サワガニ幼体

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：—
- ③ 小西碧



カワニナ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2025年12月中旬 備考：—
- ③ 堀部信城



カワニナ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 宮田イブラヒム



ヒカリギセル

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 高野瑞喜



ヒガシニホントカゲ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月中旬 備考：県RDB2006要注意種
- ③ 田淵風



ニホンヤモリ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年1月中旬 備考：—
- ③ 駒村風志



ニホンヤモリ

- ① 平岡幼稚園内 同定：—
- ② 2026年2月上旬 備考：—
- ③ 山村波乃

訂正

Vol.38に掲載した種に以下の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

P18 1段目左から2番目 齋藤さんの写真 (P23 図6も同じ写真)

誤) ナガゴマフカミキリ
正) カタジロゴマフカミキリ

ご指摘いただいた神奈川県昆虫談話会の上田衛門氏に感謝申し上げます。

DATA

創刊号からの累計

959種

昆虫類 729種 (New3種)

タイワンツヤカスミカメ
カタジロゴマフカミキリ (左欄訂正による)
マメチャイロトウ

その他 230種

※種名が判明したものに限り

No.1-40



自然と
友だちになろう。

冬の里山観察会 in 平塚市土屋里山体験フィールド



2025 Dec.- 2026 Feb.

平岡の自然教育の今

Hiraoka Kindergarten Nature Education Report

平岡幼稚園では、本誌の出版活動をはじめ、さまざまな形式で自然教育を行っています。このコーナーでは、親子自然観察会、生物の調査活動、広報・啓発活動などを中心にお伝えします。



1 / 水辺ではヤゴやサワガニ探して盛り上がる。 2 / せせらぎにはたくさんのセリが自生する。自然観察には食べる楽しみもある。 3 / 少し辛味がある大人の味のノビル。セリとともに多くの参加者が持ち帰っていた。 4 / 里山の手作りシーソー。ほかにもブランコやツリーハウスで楽しんだ。 5 / 大人気だった里山のジェットコースター「落ち葉滑り」。落ち葉が積もった斜面を何度もソリで滑走して、大人も子どもも夢中になって楽しんでいました。“里山の恵み”をたくさん感じた1日となりました！

1

冬の里山観察会

● 2026年2月15日（日）10:00～11:45

2026年2月に平塚市土屋の里山体験フィールドで、有志の園児を誘って観察会をおこないました。ポカポカの陽気（3月下旬並み）だったこともあり、冬越しする昆虫ではナナホシテントウ、キタテハなどが活動していたほか、ツチイナゴ、イネクロカメムシ、シロヘリクチブトカメムシなど越冬する成虫も見つかりました。山菜摘みのメインターゲットはセリとノビル。後日「食べたら美味しかった！」と嬉しい感想がたくさん届きました。そしてこの日、子どもたちに最も人気があった遊びは、里山ジェットコースター「落ち葉滑り」。落ち葉が積もった斜面を何度もソリで滑走して、大人も子どもも夢中になって楽しんでいました。“里山の恵み”をたくさん感じた1日となりました！

2

本園制作の「カマキリ図鑑」が地域のために

● 2026年2月15日より鎌倉広町緑地にて

2024年～2025年に平塚市博物館と協働で実施したカマキリ調査「みんなで調べよう平塚のカマキリ」。その時に本園が作成した『ひらつかのカマキリ見分け方ずかん』が、鎌倉広町緑地（鎌倉市）で利用されることになりました。

鎌倉広町緑地（48ヘクタール）は、「都市林」に位置づけられる都市公園で、樹林地等が保護されているのですが、昨年初めて外来種ムネアカハラビロカマキリが見つかってしまったそうです。そこで、公園利用者に呼びかけて拡散状況を把握するために、本園制作の図鑑を利用したいとのことでした。私たちの活動が、微力ながら地域の自然保護のために役立つことになって良かったです。



カマキリ図鑑 PDF
ダウンロード
(平岡幼稚園HP)



左上 / 「ひらつかのカマキリ見分け方ずかん（WEB版）」県内に分布するカマキリ全8種が掲載されている（疑問種ウスバカマキリを含む）。
右下 / 鎌倉広町緑地 管理事務所での掲示の様子



3

冬の夜の湘南平体験

● 2026年1月6日(火) 17:00～19:00

有志の園児家庭を誘って、冬の夜の湘南平(平塚市万田)へ探検に行ってきました。火曜日の夜だったこともあり、参加したのは1家庭+卒園児1名だけでしたが、いろいろな生きものを見つけて楽しむことができました。

見つけた虫の中で最も注目すべきは「フユシャク」です。フユシャクとは、冬季に成虫が出現するシャクガ科(一部)の総称で、その最大の特徴はメスの翅(はね)が退化して飛べないこと。そのためメスを見つけるのがとても難しいのです(大きさは米粒くらい)。

当日は、フユシャクの研究者である中島秀雄さんも同行していただき、懐中電灯を使って樹木の幹や構造物(看板や机など)を丁寧に探した結果、なんと!3匹のメス(しかもそれぞれ別の種類)を見つけることができました。しかも発見したのは園児家庭と卒園児。すごい!すごい!大きな拍手です。ほかにも日本最大級のテントウムシ「カメノコテントウ」や「カマキリ2種の卵鞘」なども見られ、皆で発見を分かち合いながら楽しいひと時を過ごすことができました。



1/ナミスジフユナミシャク♀ 2/ナミスジフユナミシャク♂ 3/ハラビロカマキリ卵鞘 4/樹木札をめくると・・・カメノコテントウが越冬していた。

4

全国学校・園庭ビオトープコンクール2025発表大会

● 2026年2月8日(日) 東京国立博物館 平成館大講堂

(公財)日本生態系協会主催の「全国学校・園庭ビオトープコンクール2025発表大会」に参加してきました。隔年で開催されるこのコンクールへの参加は4年ぶり6回目になります。今回は全国より85校(園)の参加があったようです。本園の取り組みは、最上位賞(大臣賞等)には届きませんでしたが、次点の「優秀賞」をいただき、ポスター発表をおこないました。

雪が降り積もる中(大雪の日)でしたので客足は少なめでしたが、会場内は学校関係者の皆さんの熱意であふれ、全国の学校や園の活動事例では、子どもたちの生き生きとした姿が印象的でした。日常的に自然体験をすることができる学校や園庭のビオトープが、子どもたちにとってかけがえのない学びの場所となっていることを改めて実感しました。



上写真/東京国立博物館 平成館大講堂での発表会 下写真/ポスター発表(一番手前が平岡幼稚園)

5 第25回さがみ自然フォーラムに参加

● 2026年2月12日(木)～16日(月)

本厚木駅前のアミューあつぎで開催された「第25回さがみ自然フォーラム」(主催:神奈川県自然保護協会・厚木市)に参加しました。今年も自然科学分野で活動する県内の学校・市民団体・行政・企業など、合計54団体の発表がおこなわれました。

本園のブースでは、パネル展示と湘南自然誌のバックナンバーの配布をおこないました。展示は従来のパネルに加えて、新しく新調したポスターを掲示したこともあり、多くの来場者が足を止めて見てくださっていました。バックナンバーを読みたいという方も次々と現れ、なんと!600部以上配布することになるほど好評でした。



写真上/平岡幼稚園のブース。会場の最奥部であったが、多くの方に見に来ていただいた。写真下/湘南自然誌のバックナンバー。来場者の皆様に大変ご好評をいただいた。



6 鈴川探鳥会

● 2026年2月23日(月) 9:30～11:30

田園地帯を流れ、多様な鳥が暮らす鈴川。本園では野鳥観察・研究グループ“こまたん”協力の元、毎年この時期に鈴川探鳥会を開催しています。今年は、気温は高かったものの、春一番が吹き荒れ、開始早々にわか雨に遭うなど、鳥を観察する条件としては今一つでした。鳥たちは強風の影響からかあまり動かず(見つけにくく)、たまに飛びたっても強風に乗ってピューーと飛び去ってしまい、観察難易度が非常に高かったです。そんな中でも見聞きした鳥は28種に上りました。

こまたんの皆さんには、悪条件の中でも子どもたちが鳥の観察を楽しめるように多大なサポートをしていただきました。ご協力ありがとうございました。



1/キセキレイ 2/コガモ
3/ツグミ 4/オオバン
5/ダイサギ 6/見つけた鳥をメモしている子ども

第23回 心が育つ幼児教育

吉田文雄編 #19 立春の雪



5



4



3



2

1/雪の中餌をついばむヒヨドリとツグミ 2/雨に濡れるカワズザクラの花 3/ツルウメモドキの実につく水滴 4/餌を啜るヒヨドリ 5/僅かに果肉が残る柿のヘタ

立春の雪

年々気候の変動が大きくなっているのか、今年は雨が全く降らずに正月が過ぎた。異常乾燥注意報がたびたび発令され、各地で大きな山火事が発生し、神奈川県でも伊勢原市や秦野市で山林火災があった。

植物にとって恵みの雨が降ったのは、二月七日の土曜日だった。久しぶりの雨に濡れたカワズザクラの花弁は、透けて見えるほど儂げで、雲の間から光が差すと幻想的な輝きを見せてくれた。川沿いをしばらく歩くと、オニグルミの大木に隠れるようにツルウメモドキの実が見えた。実を包んでいた果皮が三つに裂け、小さな赤い実を引き立てている。実についた水滴がレンズとなって、自然の営みを映し出しているかのようだった。

翌朝関東は大雪となり、あたりは真っ白な銀世界に変わっていた。長靴を履いて川縁の道を歩くと、「ヒューヒュー」とヒヨドリの声が聴こえてくる。姿を追うと、口に何か赤い物をくわえていた。昨日見たツルウメモドキの実だろうか？そのまま柿の木の方まで歩みを進めると、「ヒューヒュー、キキツ」

ヒヨドリやツグミたちが集まって、餌の在処を教え合うかのように柿のヘタに残っている果肉を食べている。ツルウメモドキの実に見えたのは柿だったようだ。

生きものが活動を停止したかのような雪景色の中で、鳥たちが私の心を温めてくれた。



文・写真 吉田文雄

鹿児島大学卒。元小中学校理科教諭。公立中学校長を最後に定年退職。現在は神奈川県立愛川ふれあいの村学芸員。著書に、『あつぎ自然歳時記』（国書刊行会）、『自然は友だち 春夏秋冬編』（神奈川新聞社）などがある。



第20回 知育ゲーム

出題：編集部 撮影：富岡誠一

春から初夏にかけて、あちこちで見られる身近な野草「ヤエムグラ」は、写真のように衣服に触れると落ちません。なぜでしょうか？

- ① とげとげしてるから
② べとべとしてるから
③ まほう（魔法）
- （答えは下の欄）



Vol.38のP18とP23に掲載した写真の同定に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。詳細はP16をご参照ください。

● **ダウンロード** 平岡幼稚園HPからPDFがダウンロードできます。

● **頒布** 無料で各号ひとり1部に限り、平岡幼稚園にてお渡ししています。（※ 要事前連絡）
ikimono@hiraoka-kg.com もしくは 0463-58-1188(担当:園長)まで

● **配架・所蔵** 以下の施設でも閲覧できます。

【**図書館**】国立国会図書館(東京本館・関西館)、神奈川県立図書館、横浜市立中央図書館、平塚市中央図書館、平塚市南図書館、相模原市立図書館、茅ヶ崎市立図書館本館、大磯町立図書館、二宮町図書館、藤沢市総合図書館、藤沢市湘南大庭図書館、藤沢市辻堂図書館、横須賀市立中央図書館、座間市立図書館、鎌倉市図書館、横浜女子短期大学図書館、※厚木市立中央図書館、※綾瀬市立図書館、※秦野市立図書館、鶴見大学図書館 ※印は蔵書登録なし

【**博物館等**】県立生命の星・地球博物館、平塚市博物館、横須賀市自然・人文博物館、相模原市立博物館、あつぎ郷土博物館、大磯町郷土資料館、愛川町郷土資料館、箱根町立郷土資料館、観音崎自然博物館、茅ヶ崎市博物館、櫃原市昆虫館(奈良県)

【**その他の施設**】神奈川県自然環境保全センター、神奈川県環境科学センター、県立秦野ビジターセンター、県立愛川ふれあいの村、県立足柄ふれあいの村、秦野市立くずはの家、平塚市子育て支援センター、平塚市環境保全課、平塚市立岡崎公民館、金沢自然公園ののほな館、箱根町立森のふれあい館、はこね・おだわら昆虫館、平塚市立びわ青少年の家、平塚市町内福祉村おかざき鈴の里、うみねこ博物館、平塚市立土屋霊園、Mushi・sha(むし社)

Back Number

過去号閲覧



湘南自然誌 PDF 版
hiraoka-kg.com/culture/



Publisher

発行元

HIRAOKA Kindergarten 平岡幼稚園



主な受賞歴

2014年 関東・水と緑のネットワーク拠点100選に選定
2015年 生物多様性日本アワード 最終選考
2019年 かながわ地球環境賞(神奈川県)
2020年 日本生態系協会賞(公財・日本生態系協会)
2021年 地域環境保全功労者表彰(環境省)
2025年 全国学校・園庭ビオトープコンクール優秀賞



website

平塚市北部の伊勢原台地南端の麓に位置する我が園には、台地斜面から湧き水が染み出し、元々の表土も多く残されるなど、豊かな自然環境が保存されています。2009年より園地をビオトープにして、周囲に住む多様な生物を呼び込みながら、子どもたちと一緒に地域の自然環境を保全するほか、生物の調査・研究活動も行っています。1967年開園、園地総面積7716㎡。

Answer 知育ゲーム 答え

答え≫ ① とげとげしてる

ヤエムグラの葉や茎には、フック状の小さな棘がたくさんあって服の繊維にひっつきます。子どもたちは魔法のように感じるかもしれませんが。



Editor's Note

編集後記

これまで特集では生きものそのものを取り上げることがほとんどでしたが、少し視野を広げて、直接生きものをテーマとしない特集一土を掘るところから始める陶芸体験一に挑戦してみました。世の中に自然と関係のないものはありません。どれだけ人工的なものでも、元をたどればどれも自然物です。この特集が皆様の自然体験の領域を広げることに繋がったと思います。

特集に協力してくれた矢島さんは、毎年山北町生涯学習センターで山の土を使った陶芸作品を展示する「土の詩」展(グループ展)を開催しているそうです。興味のある方は矢島そのみさんのFBをご覧ください。(富岡)



special feature

地球が食卓に並ぶまで

地元の土を活用した自然 / 陶芸 体験記

山に登って土を採り、器を作って生活を共にすることで、自然と繋がる楽しさを味わってみた。

